

平成三十年度 滋賀県立草津東高等学校普通科 特色選抜 小論文 問題

受検番号

【注意】

- ・ 原稿用紙の正しい使い方に従って書きなさい。(名前は書かないこと。)
- ・ 問題用紙、解答用紙、下書き用紙の三枚とも受検番号を算用数字で記入しなさい。
- ・ 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。

次の文章は、将棋しょうぎの棋士きしである羽生善治はぶよしはるさんが、ある講演で話した内容の一部です。これを読んで後の問いに答えなさい。

挑戦を続けていくために必要なことは何でしょうか。

ひとつには、「様々な種類の物差しを持つ」ことではないかと、私は思います。みなさんは、何か新しいことに挑戦するときには、どこかで過去に自分がやった、あるいは他の人がやっていたことを物差しにして、判断しているのではないのでしょうか。

その物差しには、長いものから短いものまであって、例えば、子どものときに竹馬に乗るために一週間練習して乗れるようになったとしたら、これは「一週間」という短い物差しを一つ身につけたということです。あるいは、英語がうまくなるために三年間勉強した経験があれば、それは「三年間」という長い物差しを身につけたといえるでしょう。

その後、もうひとつ新しい語学を身につけようと思ったとき、英語では三年かかったのだから、最初の半年ぐらいはわからなくても当たり前だ、と割り切ることができます。日々の生活の中で、長いものから短いものまで、たくさん物差しを持つことが、今後、何かに挑戦をしていくとき、必要以上に不安にならない、考えすぎないために大事な要素になります。

もうひとつ、挑戦を続けていくときに、支えになるものがあります。

十代で棋士を目指した私が、トレーニングとしてよくやっていたのが、江戸時代の人が作った詰将棋つめしょうぎの問題集を解くことでした。これが非常に難しく、ひとつの問題が一日かかっても解けないということはしょっちゅうで、ときには一週間、一カ月かかってようやく解けるということもありました。その問題集には全部で二百問あったんですが、どうしてそんな難しい問題に数多く取り組めたかという点、解けたとき、その手順の美しさや構想力に深く感動したからです。二百年前、三百年前の人が、よくもこんなに素晴らしい問題をつくり上げたなあと感じたからこそ、つらくても苦しくても、続けることができました。

何か物事に挑戦していくとき、ただ結果だけを求めていると、どうしてもうまくいかなかった、苦しくなってしまうことがあります。ですから、そのプロセスの中で、「ああ、これってすごい！おもしろい！」とか、「やる価値があるなあ」といった感動を見つけられるかどうか。それが、挑戦し続けていくときの大きな原動力になると思います。

(羽生 善治 『挑戦する勇氣』による。)

(注) 棋士きし＝職業として、将棋・碁ごをする人。

詰将棋つめしょうぎ＝将棋のルールを用いたパズルの一種。

プロセス＝過程。

問

挑戦を続けていく上で必要なこととして筆者があげている二点を、それぞれ六十文字以内で説明しなさい。ただし、比喩表現はわかりやすく言い換えること。

また、その二点のいずれかを取り上げ、それについてのあなたの考えを百六十文字以上、二百文字以内で述べなさい。